平成２３年度 第１回 大阪府河川整備委員会　議事概要

平成 23 年 7 月 6 日(水) 平成 23 年度　第 2 回 大阪府河川整備委員会	参考 資料 1

日　時　：平成２３年５月１７日（火）17:00～19:30
場　所　：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）５階　大会議室２
出席者　：堀委員長、石田委員、下村委員、多々納委員、田中丸委員、中嶋委員、中谷委員、
　　野呂委員、福田委員、道奥委員　計 10 名
概　要　：〔以下、○委員　●事務局〕

（１）委員長選任

全会一致で、堀委員が委員長に、堀委員長の指名により道奥委員が委員長代理に選任された。

（２）安威川ダム事業の検証について

●正常流量確保の必要性及びその根拠についての検証が十分なのか。また、不特定利水容量の妥当性に関し、東日本大震災でため池ダムが決壊したという事例もあることから、常時水を貯めておくことのリスクとメリットについて比較が十分にされているのか。この２点について、府民や地元の方々にも十分理解していただけるよう、改めて委員会にて検証・検討いただきたいという要請が知事からあった。
○不特定利水容量を確保しない場合、渇水時に、農業利水にどう配慮するのか。
●農業利水者が設置している堰では、当事者同士で利水量を調整されている。
○正常流量の設定手法までさかのぼって検証するならば、その学術的根拠が必要となるが、大阪府河川整備委員会として独自に基準を作成できるのかという課題がある。また、流水型ダム案に対して、安威川ダムのような規模の大きなロックフィルダムで可能かどうか、情報収集して検討すべきである。なお、流水型ダムであると富栄養化の問題は発生しない。しかしながら、試験湛水期間が避けて通れないため、検討する必要がある。
○正常流量は貯留施設がなければ確保は困難である。現状より悪くなければいいという判断でいいのか。流水型ダムとした場合の環境面への影響についても検討し、メリット・デメリットについて整理すべきである。
○危機管理の上では、常時水を貯めない流水型ダムの方が良いと思われるが、流水型ダムの安全性（力学的、水理学的）についてもしっかりと検証することが必要である。
○流水型ダムの貯水池の維持管理はどのように考えていくのか。
○集水域の状況や洪水実績から、流木や土砂流出による下流の河床変動への影響も調べておくべきである。
○この場で検討の提案があった事項について、次回までに全ての答えを用意できないと思われるので、次回の委員会での審議にあたって、「すぐに整理が可能なもの」「解析等により整理が可能なもの」「解析しても不確実なもの」に分類していただき、その上で、「貯めること」「貯めないこと」によりどのようなリスクが発生するのか議論していきたい。

（３）二級河川芦田川の当面の治水目標について

○将来的に 80mm 対応を行った場合、追加で必要な事業費は見積もっているのか。
●事業費は見積もっていないが、貯留施設が完成した場合、80mm 対応が可能と考えている。
○芦田川の事業区間は 50mm 対応で妥当であると思うが、事業効率面に関する資料が提示されていないので、事業効率面も確認する必要があるのでは。
●事業効率面の結果については、次回以降の整備委員会で示す。
○府民の安全確保が第一であるが、事業施行前後での景観を示すなど、河川整備の際の環境や景観面についての配慮がわかるように示してほしい。

（４）河川整備委員会における部会の設置について

○治水専門部会設置については、妥当と認める。

まとめ

（１）安威川ダム事業の検証について
・安威川ダムの不特定利水容量について、引き続き、委員会として審議する。
・審議にあたっては、本日委員から出た意見を踏まえ、「すぐに整理が可能なもの」「解析等により整理が可能なもの」「解析しても不確実なもの」に分類・提示し、その上で、「貯めること」「貯めないこと」のリスク及び実現性について議論していく。

（２）二級河川芦田川の当面の治水目標について
・地先の 65 ミリ 80 ミリの安全度も確認し、新規実施する区間の当面の治水目標を 50 ミリとすることは妥当である。ただし事業の効率性について次回報告すること。

（３）河川整備委員会における部会の設置について
・治水専門部会設置については妥当と認める。